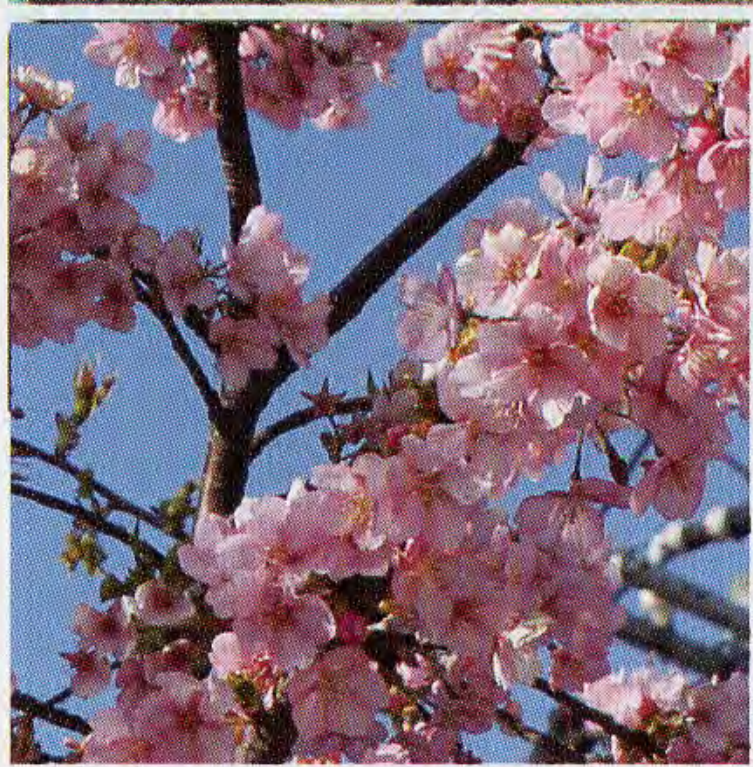




樹里安だより

ジュリアン

Vol. 29



安行寒桜



河津桜

— 安行の名所 (その16) —
将来は花見の名所に

伝右川の桜並木 《川口市安行出羽》

川口市安行出羽の伝右川沿いに、桜が植樹されてから7年。今では大きく成長して花見もできるようになり、地元の人たちは「将来は桜の名所になるだろう」と期待している。

伝右川は同市と草加市境を流れる用排水路。綾瀬川右岸の新田開発のため寛永5年(1628)に開削され、水利の役目を果たしてきた。しかし、流域の都市化が進むにつれて水質は悪化、昭和40年代には汚染度が埼玉県一位とまでいわれた。

桜の植栽は、川の環境美化、汚染防止の啓発とともに地元産の安行寒桜の普及を図ろうと、地元の人たちが「安行桜を愛する会」(鈴木誠一会長、会員70人)を結成。平成16年、県の許可を得て、右岸の河川敷500mに安行寒桜50本を植えた。6年目にはたくさんの花が咲き、花見を楽しむことができたという。この活動に応じて草加市でも平成20年、対岸に河津桜とソメイヨシノ計36本を植樹した。これで両岸が桜並木となり、地元の人たちは「将来は両岸での花の競演が見られそうだ」と期待している。

安行植木の開祖・吉田権之丞を顕彰

戸塚安行駅前の クロマツ (川口市長蔵新田)

埼玉高速鉄道線「戸塚安行駅」の階段を上り地上に出ると、駅前のロータリーの真ん中にどっしりと構えるクロマツの姿が目に入る。

この木は安行植木の開祖といわれる吉田権之丞の没後300年を記念して、平成14年に植えられた。古木大木を対象に川口市が指定している保存樹木ではないが、緑化産業のシンボルとして大事に育てられている保存樹木だ。

クロマツは、本州、四国、九州の海岸沿いに生えるマツ科の常緑高木。高さ35mにも達する巨樹大木が多くあるが、人間によって植栽された木も多い。これは、人間生活と関わりが深いため、建築、土木、器具などの材にするほか、防風林、屋敷林、賞用としての庭園樹、盆栽など広く利用されており、かつては松脂（樹脂）は燃料、照明にも用いられた。

また、多くの樹木の中でも特に信仰生活と深い関係にある。正月の年神を迎える門松、松飾りや年棚、大黒柱に小枝を飾る風習は今も続いている。伝説も多くある。村に異変がある時、神が降りて告げる神降り松、木を削って火をつけると子どもの夜泣きがやむという夜泣き松、そのほか天狗松、竜燈松などの伝説が広く各地に残されている。

クロマツの記念植樹は、人間生活に直結し、「不老不易」の象徴とされているマツにあやかり、吉田権之丞の功績を後の世に伝えていくとともに、緑化産業の発展を期そうというのが目的。

吉田権之丞（1635～1703）は、当時の植木産地であった江戸・染井村（現東京都豊島区巣鴨・駒込）で栽培技術を修行したあと安行に戻り、切り花や植木を作って江戸に売り出し、「花屋」とよばれて安行の名を広めた。さらに明暦3年（1657）江戸が焼け野原となった振袖火事の際、花や植木を出荷して大当たりしたといわれ、これを機に近隣農家に栽培が広がり、一大産地を形成する基礎を築いた。

植樹式は平成14年5月4日、吉田権之丞の菩提寺・金剛寺で開催された没後300年祭に併せて戸塚安行駅前のロータリーで行われた。クロマツは、没後300年にちなんだ樹齢300年の古木。優雅な仕立て方が特徴の「安行流」で作り上げた見事な庭木で、宇田川勇氏が寄贈した。岡村幸四郎市長、五島淳300年祭会長、鈴木誠一同委員長の手で植えられ、参列した関係者たちと一緒に、郷土「安行」の発展と植木産業の振興を祈願した。



クロマツ

Pinus thunbergii Parl マツ科マツ属

- 別名 雄松・男松
- 分布 九州・四国・本州の海岸沿い
- 高さ 30～40m。幹周り 4.5 m以上になる常緑針葉高木
- 用途 和洋風庭園樹・公園樹・防風林・防潮林・神社仏閣への植栽など。
- 陽樹
- 生長は速い。萌芽力はなし。移植は容易。煙害に弱く潮に強い。
砂質壤土を好む。乾燥に耐える。
- 雌雄同株で開花は4月、実は翌年秋に熟する。



戸塚安行駅前の記念樹

樹 種	科 名	年月日	所 在
クロマツ	マツ科	H14.5.4	長蔵新田



縁起木で緑化産業の伸展祈願

川口にも存在した ナギ の木

ナギ（榊）という木をご存じだろうか。神木として神社に植えられ、その葉は船乗りなどの厄除けのお守りとして使われてきた縁起木だ。この由来にあやかって、川口緑化センターは平成22年4月、第70回を迎えた大花植木まつりで、この木を記念植樹し緑化産業の伸展を祈願した。

ナギは、マキ科の常緑高木。本州（近畿以西）四国、九州、沖縄の暖地の山中に生え、樹高は20mに達する。造園木としても利用されるが、関東南部が北限とされている。雌雄異株で、5～6月に雌花は緑色、雄花は黄白色の花を咲かせ、10～11月に直径1～1.5cmの青緑色の実をつける。

この木が、ご神木として崇められ、熊野神社など熊野三山系の神社には、雌雄一対が参道に植えられている。また、その名が「風」に通じることから船乗りの信仰を集めたが、船乗りだけでなく、一般の人たちもその葉を災難よけにお守り袋や鏡の裏に入れる風習もあった。長さ4～6cm、幅1.7～2cmの光沢のある葉は筋が強く、いくら引っ張っても切れないというので、夫婦の絆が切れることのないよう願いを込めて鏡の裏に入れたという話や、鏡の裏に入れておく与会いたいと思う人が鏡面に現れるという話など、この木にまつわる伝説は多い。

ナギは川口にも根づいていた。川口大百科事典によると、昔、足立郡元郷村（現川口市元郷）の荒川河川敷一帯は「榊の原」と呼ばれていた。ここに対岸の豊島郡下村（現東京都北区）を結んだ村営の「榊の原の渡し」があった。元郷村には対岸に飛び地があり、そこで農業を営むためだった。この渡しは、大正年間に荒川放水路の開削によって姿を消した。

この記述にある「榊の原」はナギの木がこの地で育っていたことを裏付けるものとされているが、今では一帯が工業団地となり、昔の面影は全く見られない。が、ただ一つ団地の芝川に架かる「なぎのはし」という名だけが、往時の名残をとどめている。

このように川口の緑の歴史に縁があり、何事にも耐える強い葉を持つ縁起木にあやかって川口の緑化産業を盛り上げることになった。記念植樹は大花植木まつりが開催された平成22年4月17

日、同緑化センター入口の緑地帯で行われた。集まった緑化産業の関係者たちは、高さ2.5mの若木を植栽し、緑化産業が将来にわたり途切れることなく、また農業が廃れることのないよう祈願していた。



ナギ

- 科 名：マキ科ナギ属
- 学 名：Podocarpus nagi zoll. et Moritzi
- 分 布：本州・四国・九州・沖縄・中国海南島 台湾
- 高 さ：20m 幹周り2m以上になる常緑針葉高木
- 用 途：和洋風庭園樹・公園樹・防風林・防潮林・神社仏閣への植栽など
- 陰樹
- 生長は遅い。萌芽力はある。煙害に弱く潮に強い。
砂質壤土。乾燥に耐える。
- 葉は卵状被針形
- 雌雄異株で開花は5月、実は翌年秋に熟する。
- 春日大社のものは、樹齢1000年以上。
- 寒さに弱く、生育は関東南部が北限。



芝川に架かる「榎木の橋」(川口市領家)

ホールインワン

モクレン

モクレン科 モクレン属
(落葉広葉樹・低木～小高木・陽樹)



満開のモクレンは、花の大きさから、極めて豪華である。したがって、めったにないことが起こった驚きや喜びをあらわすにふさわしく、ホールインワンの記念にはぴったり。モクレンは紅紫色の花色から、シモクレンともいわれる。ほかに、白色の花を咲かせるハクモクレンなどもある。中国では、ハクモクレンを玉蘭（ぎょくらん）と称し珍重した。

1. 特徴

開花期：3～4月、結実期：9月。ハクモクレンは大高木になる。

2. 植えるときの注意

時期：2～3月

場所：土質はあまり選ばない

3. 管理のポイント

花が終わった直後にせん定を行う。秋になってから刈り込むと、花芽が切り落とされて翌年花が咲かない場合がある。

《他の木》



カルミア

常緑広葉樹
低木・中庸樹



バクチノキ

常緑広葉樹
高木・中庸樹



ボタン

落葉広葉樹
低木・陽樹



バラ

落葉／常緑広葉樹
低木・陽樹

参考：日本緑化センター 木を植えよう 記念樹にふさわしい木とそのいわれ



川口緑化センターの主なイベント結果報告

1 第71回 秋の安行花・植木まつり

平成22年10月9日(土)～11日(祝)

植木の里・安行の伝統行事である植木まつりを「川口緑化センター」「川口市営植物取引センター」「埼玉県花と緑の振興センター」の3会場で開催しました。盆栽・秋バラの展示、各種園芸講習会、花・植木のオークションなどが実施されました。

また、埼玉高速鉄道「戸塚安行駅」からレンタサイクルを実施するなど、会期中多くの方が来場されました。



2 第49回 農林水産祭 実りのフェスティバル

平成22年11月12日(金)～13日(土)

「東京ビッグサイト」で開催された「第49回農林水産祭」に出展しました。パンジー・ビオラ・シクラメンなど市内産鉢花の展示即売を実施し、花・植木の安行をPRしました。



3 秋の並木元町公園植木市

平成22年11月13日(土)～14日(日)

「並木元町公園」において「秋の並木元町公園植木市」を開催しました。市内緑化団体の「植木市」・「園芸講習会」を実施し、たいへん好評でした。川口駅周辺でのPRを図りました。

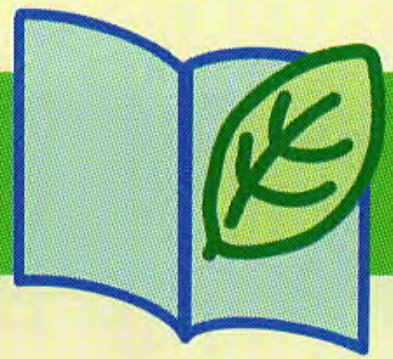


4 安行植木市 in 麻布十番

平成22年11月27日(土)～28日(日)

都心・麻布十番の「パティオ十番」において植木市を開催し、植木・盆栽等を展示即売しました。地域柄、多くの外国人も訪れ、国際的にも植木の里安行をPRしました。





● 花の格言・名言集（その4） ●

四季折々に咲く草花や花木ほど、自然の美しさとともに潤いや安らぎを与えてくれるものはない。人生の喜び悲しみ、生活の知恵など、花によせた格言・名言の心を知り、生活の糧にしてみたら。

[年末歳歳花相似たり 歳歳年年人同じからず]

唐の詩人・劉希夷が「白頭を悲しむ翁に代る」と題して詠んだ詩の中で最も有名な句。毎年、変わらずに咲く花のように自然は変わらなくても、人の境遇はたやすく変化する、という意味に広く使われている言葉である。

詩は「応に憐れむべし半死の白頭翁口伊れ昔紅顔の美少年」とあり、老いの哀しみや人生のうつろいやすさを嘆いた。

[花好きの畑に花が集まる]

物は常に好む所に集まることで、類は友を呼ぶ、金は金を呼ぶ、とのたとえ。

[悲観的になったらバラを眺めよ]

花は無言のうちに人の心をなぐさめてくれるというフランスの詩人サマンの言葉。石川啄木にも、気持が沈んだ時に花を買ってきて妻とながめたという意味の歌がある。

[花は百日の紅無し 口人は千日の好無し]

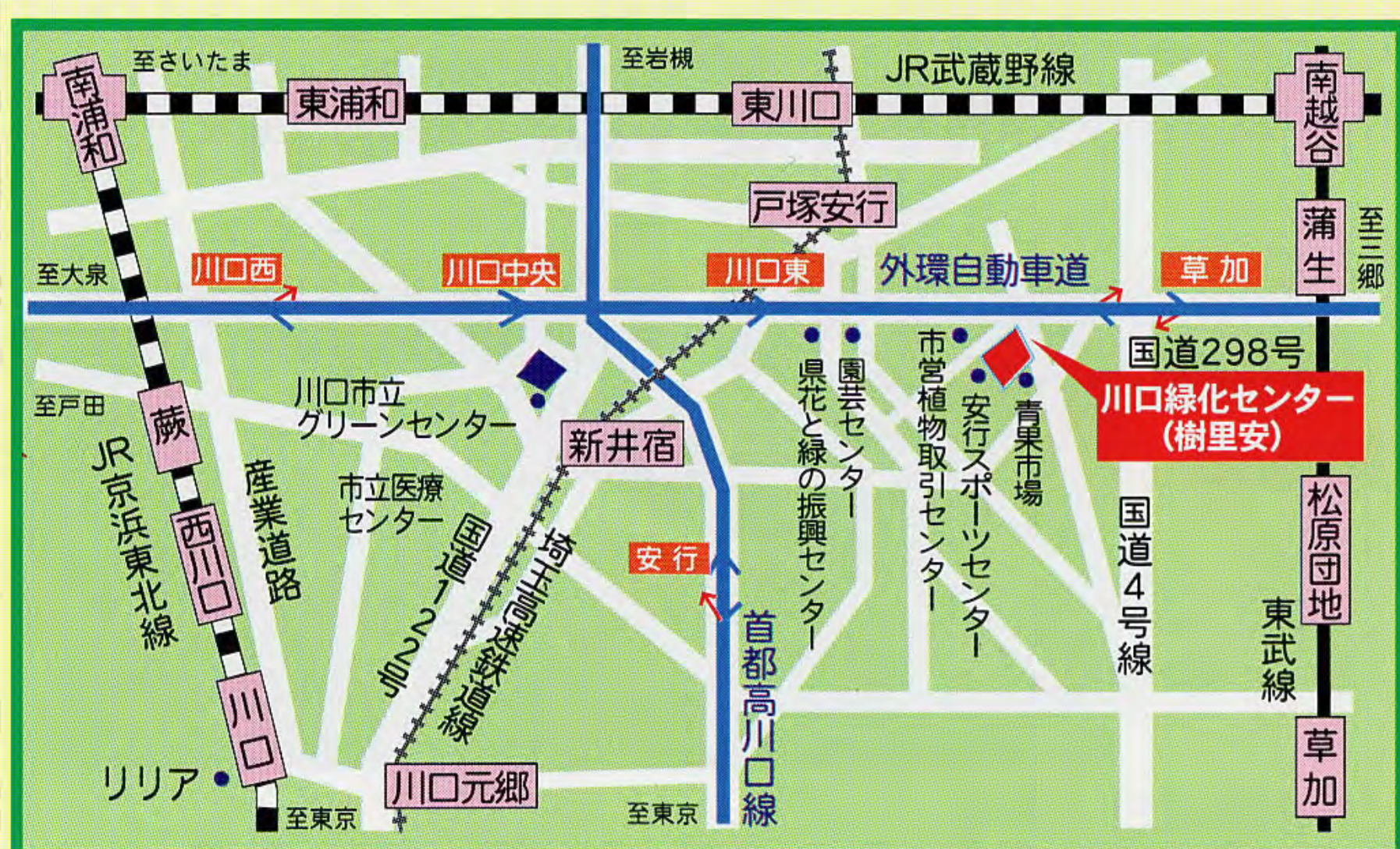
草木の花は咲き匂っても、百日の間も紅色を保っているわけではない。同じように人間も長い間にわたって好調で幸せな日々が続くことはない、と驕りをいさめた。

[花は根に帰る、鳥は古巣に帰る]

枝に咲いた花は根本に散って木のこやしとなり、空飛ぶ鳥も終わりには巣に帰る。物すべてもとに帰るたとえ。

[花は盛りに月は隈なきをのみ見るものかは]

徒然草の一節。花も月も満開や満月のときばかりがよいのではない。いつ見ても、そのときそのとき趣がある。



ジュリアン

樹里安

川口緑化センター・道の駅「川口・あんぎょう」

発行日：平成23年3月1日

発行：財団法人 川口緑化センター

〒334-0058 川口市安行領家844-2

TEL 048-296-4021

ホームページ：<http://www.jurian.or.jp>

きらり川口
緑いっぱい